

# EMERGENCY WATCH!

## 疾患頻度

1. 急性上気道炎・感冒	521人
2. 気管支喘息・喘息性気管支炎	294人
3. 感染性胃腸炎	278人
4. 気管支炎・肺炎	139人
5. 咽頭炎・扁桃炎	136人

No.83  
Nov.2017

## 神戸こども初期急病センター

# 2017年10月受診者数 1975人

寒い季節となりました。皆さんお変わりございませんか。インフルエンザの感染症が散見されるようになり、当センターでも10月の1ヶ月で26の方がインフルエンザで受診されました。感冒や発熱などで頭痛を伴うことがありますので、今回は頭痛をとりあげようと思います。

### Q1: こどもの頭痛の特徴は?

成人と異なる部分がある、頭痛の性状が捉えにくい、複数の頭痛が存在し、二次性頭痛も少なくない、頭痛の薬剤使用時に制約がある、心理的社会的要因の関与が多いなどの特徴があります。

### Q2: 頻度は?

日本人の片頭痛の有病率は中学生で4.8%、高校生で15.6%、緊張性頭痛の有病率は高校生で26.8%というデータがあります。頭痛外来における二次性頭痛の頻度は低いです。小児の救急外来における頭痛は、ウイルス感染、副鼻腔炎など神経疾患以外の感染症が多く、次いで頭部外傷です。

### Q3: 分類とその代表的疾患は?

一次性頭痛: 片頭痛、緊張性頭痛、三叉・自律神経性頭痛、その他

二次性頭痛: 頭頸部外傷、脳血管障害(頭蓋内出血、脳梗塞、もやもや病など)、非血管性頭蓋内疾患(頭蓋内圧亢進症、てんかん発作、脳腫瘍など)、薬物などの有害物質、感染症(一般的な感冒、副鼻腔炎、中耳炎、歯周炎など)、高血圧、低酸素、精神疾患(うつ病、不安、適応障害など)などによる頭痛

### Q4: 急激に起きる頭痛の危険なサインは?

けいれん、意識がおかしい、歩けない、手足や体の一部が動かない(麻痺)を認めた場合は速やかな検査が必要です。そのほか、発熱がある場合は頻回の嘔吐、発熱がない場合は血圧の上昇などがポイントにもなります。

### Q5: 対応は?

治療は頭痛の原因によりそれぞれ異なります。

一般的に小児の頭痛における緊急絵師は必ずしも高くはありませんが、危険な状態が予想される場合は血液検査、頭部CT/MRI、脳波検査、髄液検査などの検査を行います。Q4に示した危険なサインが見られる場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

出典: 小児内科 2016 vol.48 No.8 1088-1121.